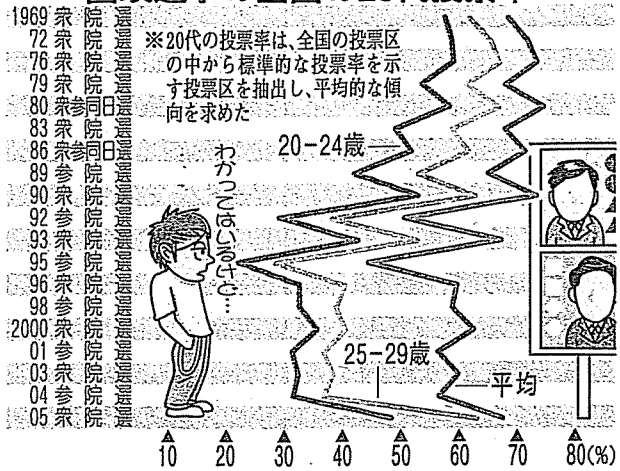
福井新聞　平成１８年８月１１日

若者視点で投票啓発

県選挙協　青年活動隊２年目

二十代の視点で選挙啓発を行い、同年代の投票率低下に歯止めを掛けようと、県明るい選挙推進協議会の青年活動隊「CEPT（セプト）」が二年目の活動をスタートさせた。隊員十一人の平均年齢は二十二歳。若者ならではのユニークな発想で仲間たちに選挙への参加を呼び掛けていく。

◆◆◆◆ 国政選挙の全国の20代投票率 ◆◆◆◆



11人に増員 20代をターゲット

大学での活動に力

全国の二十代前半の投票率をみると、国政選挙では一九八九年の参院選から二〇〇四年の参院選までは平均を20%以上下回る。昨年の衆院選は投票率が67・51%に上昇し、国政選挙としては二〇〇〇年の衆院選以来の60%超えとなったが、二十代前半は48・33%にとどまった。県内でも全国と同じ傾向がみられる。

こうした状況を打開しようと、同協議会は各市町が選出する従来型の「青年推進員」とは異なるサークル的な「青年活動隊」を昨年発足させた。グループ名の「セプト」は「明るくきれいな選挙を推進するチーム」を表す英単語の頭文字を組み合わせたもので、初年度はテレビ番組の「飛び入りコーナー」などで衆院選の投票参加を呼び掛けたり、県立大の大学祭での啓発イベントなどを立案、実施した。

県選管事務局で県市町村課の河上芳夫総括主任は「青年推進員は受動的な活動が中心だが、青年活動隊は能動的に動ける。自分の趣味や特技を生かし、同世代の関心を高めてほしい」と新たな試みの狙いを説明する。

本年度は学生や会社員ら四人が新たに加わり、隊員数は十一人にパワーアップ。六、七月に開かれた会合では「大学、短大での啓発活動をさらに充実させては」「未来の有権者に投票の大切さや選挙の仕組みを理解してもらうため、小学生向けの副読本を作成しよう」などさまざまな提案が出されており、実現可能なものから順次取り組んでいくことにしている。

隊員の一人、福井大四年の倉地潤さんは「国民生活に結びつく大事な話は国会で決められているのに二十代の多くは遠い世界のように感じていると思う。スーパーでの買い物にも政治が反映されている。政治を身近に実感できるような活動を繰り広げていきたい」と意気込みを話している。

今後も一カ月に一回のペースで企画会議を開き、秋から本格的な啓発活動を展開していく。セプトへの参加申し込みは、県選管事務局＝☎0776(20)0260。

20代ならではの選挙啓発活動について意見を交わす青年活動隊のメンバーたち＝県庁